

私が初めて、シマウマサークルに参加したのは今年、平成 29 年 6 月 1 日でした。10 万人に 5~6 人しかいない NET の患者の方が 13~14 人集まっておられ、各自の NET の部位、進行状況、治療中の薬等、お話を聞き、真剣に且つ、真面目に取り組んでいらっしゃる事をひしひしと感じ、参加させていただいた事に感謝致しました。さて私は、平成 21 年 11 月 10 日に東京、築地の国立がんセンター中央病院で肺がんの手術をいたしました。その時の病理検査で神経内分泌腫瘍と言われ、珍しいがんだと聞き、その後のフォローアップでも特に異常なく、約 8 年が経過致しました。平成 29 年 4 月 21 日から咳が止まらず市販の風邪薬を服用していましたが、5 月 12 日に、かかりつけの医者に診察受けたところ、マイコプラズマ菌にかかっていると言われ肺炎の疑いがあるので CT 検査を受けました。結果、肺炎は無く、肝臓に 4~5 個の腫瘍が見られる、詳しく検査の必要があると言われ、早速、築地のがん研に電話し 5 月 30 日、がん研で詳しく検査した所、原発は肺がんで、肝臓全体に腫瘍が無数にあると言われ、この状況だと手術はもう無理で日本の標準治療の中の、抗がん剤投与かカテーテル治療しか無いといわれました。もし何の治療もしなかったらあとのくらいの生存期間ですかと尋ねると、半年ですと言われました。5 月 30 日までは体調の変化も特に無く、食欲もあり、酒も普通に呑んでいました、それが余命半年と言われ「そんな、馬鹿な！」と思い、がん研の担当先生にセカンドオピニオンにかかりたいと言い、渋谷の日本赤十字病院名誉院長の幕内先生（世界で初めて肝臓移植を成功された先生）に話を聞きました。先生の話では肝臓の中で門脈が 2 つに分かれているが、右側（肝臓全体の 7 割近く）の門脈を塞栓手術し、右の肝臓に血流・栄養が行かないよう手術する、そしてその右側には 12,5cm の大きな腫瘍と無数の腫瘍が有り、大きな腫瘍はいつ破裂してもおかしくないと言われました。門脈の左側にも無数の腫瘍と、2cm 大の腫瘍が 3 個あり又、副腎にも転移しているので、本手術する時、上記、列記の腫瘍を全部切除する、そしてその後は腫瘍が大きくなったら 1~2 年の間に再度手術切除、その後は腫瘍が大きくなったら又手術、と 3~4 回繰り返せば延命は出来るといわれました。そして肝臓の右側を塞栓し左側のボリュームも 5%アップしたので、平成 29 年 8 月 9 日午前 9 時手術開始、終了は午後 8 時でした。予定通り列記の腫瘍は全部切除、無事終了しました。開腹手術は、みぞおちから右脇下まで約 40cm くらいに至り術後 3 日間は、絶食意識朦朧・幻覚も起こりました。もう二度と手術はしたく無いと思い、NET に関する治療薬・治療病院・最新の治療法、等ネットで調べ始めました。重粒子線を使用した治療法（私の場合は腫瘍が無数にある為、肝臓自体がダメになるとの事）・アメリカに京大病院出身の小林先生が取り組んで実際効果を出している遠赤外線治療・欧米で 20 年近く取り組んでいる、PRRT・最近話題になっているプレジジョン メディシン・京都大学病院で日本で最初に取り組んでいる オンコプライム（がん細胞で生じているがん関連遺伝子の変異を解析する検査）等ありますが私が選択したのは、PRRT とオンコプライムでした。京都大学病院の増井先生にも相談し、まず PRRT の申し込みをして、画像データ、検査資料を預かり、11 月 8 日、スイス バーゼル大学病院への窓口になっている、横浜市立大学病院・小林先生に会いに行きました。10

月 26 日に 68 GA jDOTA TOC を京大病院でうけて骨にも転移してるが 私の NET には PRRT は肝臓・骨転移にも効果があると思われる、と言われました。(余談ですが肝臓切除手術後、日赤でペット検査を受けたところ、何処にも転移していないという結果でした。) バーゼル大学病院は受け入れ O.K というので、平成 30 年 1 月 7 日成田を出発、8 日~9 日と治療を行う予定です。その結果は又、お知らせ出来ればと思っています。さて、もう一つの選択肢の オンコプライム は、12 月 14 日 京都大学病院の松本先生に依頼しました。私の場合は、手術で切除した腫瘍の肉片があり、その肉片をアメリカの研究機関に送付、230 種類の遺伝子を解析するとの事、それによって私の腫瘍によく効く薬剤が見つかる可能性があるかと又、結果が分かるのに、約一ヶ月半かかるとのこと、今、現在考えているのは、この二つの方法で進め、医学の進歩で更に、新しい薬、新しい治療法が出てくるのを期待しているところです。先ほど、PET 検査で何処にも転移していないという結果がありましたが、NET の G2 だとおとなしい腫瘍なので PET 検査に、でない場合があると松本先生の見解でした。このオンコプライムの結果も又、分かり次第報告したいとおもっています。